

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース)

県政の課題(テーマ)報告書

平成30年6月4日

山梨県知事 殿

氏名 芝井千夏
留学先 アメリカ合衆国 オハイオ州
フィンドレー大学
留学期間 平成29年8月15日
~平成30年5月5日

1 研究の課題(テーマ)

英語教育の強化のために必要な取り組みについて

2 概要

与えられた県政の課題(テーマ)の解決に導く考え方及び対応策等

1. 実践的な英語教育の必要性への気づき

私の県政の課題のテーマは「英語教育の強化のために必要な取り組みについて」です。私は将来、実践的な英語教育を多く取り入れた中学校の英語教員になることが目標です。私は中学2年生まで英語の学習が好きではありませんでした。英語の必要性を感じていませんでしたし、意味のない教科だと思っていました。しかし中学2年生の夏、転機は訪れました。中学校の事業で台湾に行く機会を頂いたのです。最初は行きたくないと思っていたのですが、両親が経験になるから、と半ば強引に私を事業に参加させてくれました。私は嫌々でしたが、両親の考えは間違っていないでした。この経験が英語学習へのイメージを180度変えてくれたのです。当時、英語が話せるわけではなかったのですが、少し通じるだけで今までに味わったことのない喜びと、それと同時にそれまで英語を真面目に勉強しなかった自分への後悔の気持ちでいっぱいになりました。この台湾への滞在がきっかけで英語学習の楽しさ、そして重要性を知ったのです。頑張って覚えた単語は、海外から来た人々と意思疎通を図るためのツールとなるし、頑張って伝えた英語は、自分の意思を相手に伝えたことになる。頑張って聞き取った相手の言葉は、英語を勉強していなければ得られなかった新しい知識になる。単純なことかもしれませんが、この感覚が当時の私を英語学習の虜にしました。

しかし、日本にいながら英語学習に意欲を持つのは至難の業だと私はつくづく思うのです。特に留学を終えた今、それを痛感しています。なぜなら、帰国してからこの報告書を書くまでに英語を話す機会はあったかということ、数回しかなかったという事実があります。この英語を使わないでも生きていけるという状況が生徒たちにとって日常化しているのです。海外に行かずに、卓上で英語を勉強していれば、生徒が英語を勉強したがるのも頷けます。しかし、英語が伝わることの達成感や喜び、英語が伝わらない時の私が感じた後悔や悔しさ、両方を感じることが英語学習への意欲向上の近道なのだと感じます。また、英語を話せるだけで自分の異文化への寛容性・理解力を身に着けることができます。留学に行き、メキシコやケニア、ブラジル、ザンビア、サウジアラビア、そのほか様々な国からの留学生と友人になりました。彼らからは彼らの言葉で、彼らの国について、メディアからではない嘘偽りのない真実を教わりました。共通の言語を話すことで真の異文化を知ることできます。

2020年度より小学校3年生より英語教育が導入されるほど、英語教育の重要

性は増しています。一方で、児童や生徒は英語教育の重要性に気づける環境にいません。しかし、どうもがいても英語は受験科目の1つですし、人生において避けては通れない教科なのです。それならば、児童・生徒が英語学習を楽しみと思えるようなきっかけを作る授業や環境が必要なのではないでしょうか。その結果として、私は実践的な英語教育がカギとなると考えるのです。以下、アメリカでの外国語学習、また留学生が行ってきた英語学習をいくつか例に出し、留学で得た知識を共有させていただきます。

2. アメリカにおける外国語学習

a) 日本文化とアメリカ文化を比較する授業 (Experience in Japanese)

この授業では日本人と日本語を学ぶアメリカ人がペアになって授業を受けます。毎週、日本文化、例えば、お辞儀の文化、本音と建て前の文化、縦社会の文化などのトピックに対して日本人とアメリカ人の意識の違いなどについて話し合います。その中で、文化の違いに直面した際、日本人の考え方や日本語での会話の仕方といった実践的な日本語を学ぶ活動が多く取り入れられていました。また、学期末にはテストではなく日本文化とアメリカ文化の違いについて理解したものをまとめるというレポート課題がありました。このように、日本語を学ぶ上で、文化を理解し、それを日本語で表現するというのは、実践的な日本語を使用できる活動だと思いました。

この点で、ダイナミックやまなし総合計画・部門計画の【郷土学習教材の作成・活用】は実践的だと考えます。なぜなら、山梨は富士山で有名であり海外からの観光客が多く、生徒たちも意欲を持って学習できるからです。外国の方に会う確率も高く、英語を使って授業で学んだことを活かせるのは大変よい教育の場だと考えます。富士山付近に住んでいない生徒でも、山梨には多くの大学があり、それらの大学の留学生と交流できる場を設ければ生徒たちの意欲向上になるのではと考えます。

b) 日本語の授業 (大学生)

アメリカにおける日本語の授業を見学させていただいた際に、教員がすべて日本語で説明している光景を見て驚きました。その授業は日本語を初めて学習し始めた生徒対象だったのですが、日本語で話しかけ、日本語で生徒に答えさせるという形式で授業が展開されていました。生徒たちは、最初は理解していない様子でしたが、教員がいくつかの例を挙げたり、動画を見せたりして日本語の意味を理解させる、という活動が印象的でした。また、イントネーションやアクセントに誤りがあればその都度教員が訂正しており、日本の授業ではあまりない光景だと思いました。テストの中には日本語の会話の力を図るものがあり、友人は日本語話者らしく会話できるよう練習していました。

c) 日本語指導のボランティア (小学生)

春学期の6週間、小学校に行き日本語指導のサポートをさせていただきました。題材は海の生き物で、6週間で15個以上の生き物の名前と基本的な動詞(泳ぐ、遊ぶ、歩く、食べる)の肯定文と疑問文を学習しました。また、基本的な挨拶(こんにちは、元気ですか、元気です、さようなら)も学びました。

毎回授業の前日に授業計画を立てるのですが、アクティビティの量を意識していました。挨拶の学習では、オリジナルの歌を作りました。その歌詞に振り付けをつ

け、それを授業の最初と最後に必ず歌うようにしていました。また、歌の中だけでなくその挨拶が使えるタイミングを見計らい、どう使うのかも積極的に教えました。

海の生き物や同士の肯定文・疑問文を学ぶ際も、ロンドン橋、サイモンセイズ (Simon says) だるまさんが転んだなどのアクティビティをたくさん取り入れました。多い時には30分間で3つゲームをした日もありました。生徒たちが普段やっているようなゲームを取り入れることで新しい単語にもなじむことができたようです。

最終日には児童だけで単語や動詞を発音してみる、挨拶を試してみる、などを試してみましたが、ほとんどの児童が何も見ずに言えていました。アクティビティを取り入れて発音する機会を増やすことの大切さに気づくことのできた6週間になりました。

3. 留学生が受けてきた英語学習

私は「世界ではどのような英語教育が行われているのか」に興味を持ち、フィンドレー大学の留学生を対象に個人的なアンケート調査を行いました。43か国の内、19か国の留学生が協力してくれ、各国の英語授業の取り組みや日本の英語教育に取り入れるべきものの明確化を図ることができました。

まず、日本の英語学習の目標を知っていただきたいと思います。以下が文部科学省の掲げる英語教育の目標です。

1 目標

- (1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
- (2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。
- (3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- (4) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

文部科学省 学習指導要領「生きる力」

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/gai.htm)

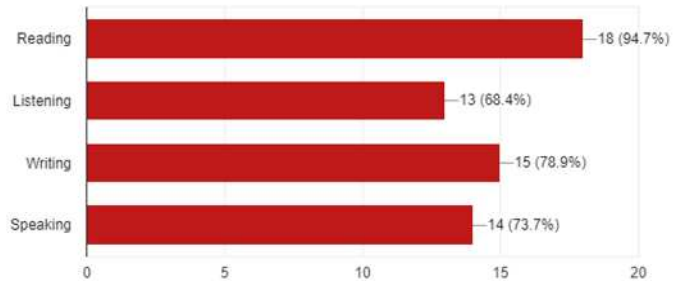
2017年12月17日 最終アクセス

しかし、実際の教育現場ではこれらの目標を達成できるような教育ができていのでしょうか。当時の私の英語の授業では、文法を中心にした授業が多かったように思います。教科書に出てきた新出文法と単語を授業内で復習し、音読をして定期テストに備えます。これは、定期テストだけでなく、受験にも文法や単語、そしてリーディングの力が最も図られるからです。しかし、実際に英語を使用する場面に直面した際、話す力、書く力、聞く力も重要になってきます。ここでも英語を実践的にバランスよく学ぶ必要が見いだせます。

この統計で興味深かったことは、Readingの次に Writing を重視した英語教育を受けてきた留学生が多いということです。次に Speaking、日本で Reading の次に試験で試される Listening は最下位でした。

Which skill did your teachers focus on learning when you were junior high school?

19 responses



中には文法がカリキュラムにほとんど導入

されていなかったと言うオランダ人の友人もいました。しかし、彼女の英語の発音はネイティブのようで、特に話す力、聞く力が備わっていました。どのように学習したかを聞くと話して聞く、という練習を行っていたそうです。英語学習にはバランスが大切ですが、日本の英語教育は Writing と Speaking の機会が大きく少ないと見て取れます。

また、ドイツでは reading をしてからディスカッションをして読んだ内容を理解しているか確認する時間があつたようです。また、英語で読んだものに対して自分の考えを言う場があることは英語で考える力も身につくと考えます。

コロンビアでは英単語を学習する際、動きをつけていたようです。私がアメリカの小学校で行ったものと似ています。動きをつけることで、体全体で単語を学ぶことができると考えます。

また、複数の国では母国語は使わず英語のみで授業が行われたというものもありました。どうしてもわからなかった部分は母国語で説明してもらっていたようです。

私が受けなかったような英語教育を受けてきた友人が周りにいることで刺激を受けました。また、Reading、Listening、Writing、Speaking のバランスが取れた授業をもっと心がけるべきだと気づくことができました。

4. まとめ

この留学を通じて実践的でバランスの取れた英語教育が今の日本には必要だと強く感じました。来年は大学の授業の一環として山梨の中学校に行ったり、地元福井で教育実習をしたりと実際に教育現場に立つ機会が増えます。その中で、留学で得た知識をできる限り取り入れていきたいと思っています。現段階で、留学先の友人と将来の生徒を繋げるアクティビティをしたいと思っています。アメリカの友人も快く受け入れてくれ、実行できるよう進めていきたいと思っています。

留学を通じて、日本の英語教育をしっかりと見つめる機会を頂き、将来の糧となる約9か月を過ごさせていただきました。帰国して1か月が経ちますが、怠ることなく将来の目標に向けて日々前進したいです。最後まで読んで頂きありがとうございました。

3 添付書類

詳細について、図・表・写真などの資料も含めて A 4 縦版 5 枚以内にまとめて報告してください。

パソコン・ワープロの使用可（使用する文字は 12 ポイントとしてください。）